

# 舞たうん

まちづくりネットワーク えひめ

Vol. **152**  
2023.7

特集 『空き家対策の新たな可能性を探る』  
～さまざまな取り組みから生まれる地域の賑わい～



tiliki !!!

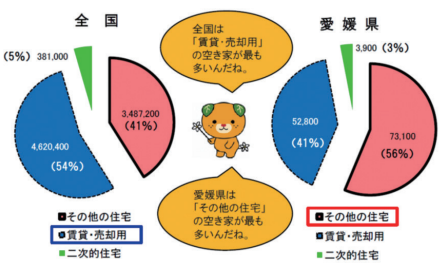
ちいきの応援団。  
公益財団法人 えひめ地域活力創造センター

### 住宅総数に対する空き家総数の割合 (※二次的住宅を除く)

順位	都道府県	住宅総数(戸)	空き家総数(戸)	空き家率
1	和歌山県	485,200	91,000	18.8%
2	★徳島県	380,700	71,100	18.7%
3	鹿児島県	879,400	162,800	18.5%
4	★高知県	391,600	72,200	18.4%
5	★愛媛県	714,300	125,900	17.6%
6	★香川県	487,700	85,400	17.5%
7	山梨県	422,000	73,500	17.4%
8	山口県	719,900	124,500	17.3%
9	大分県	581,800	92,900	16.0%
10	栃木県	926,700	144,400	15.6%

H25住宅・土地統計調査では2位 (全国平均 13.0%)  
【二次的住宅】 別荘及びその他(たまたまに譲り渡す人がいる住宅)  
(総務省統計局「平成30年住宅・土地統計調査」より作成)

### 空き家の種類別の割合について (H30)



### いずれも愛媛県HPより

愛媛県は、住生活基本計画を策定し、住まいやまちづくりへの意識の向上を図っている。ライフスタイルや価値観にあった住宅を確保するために、多様な情報から適切な住宅を選択することや、質の高い住宅の建設や改修を行うこと、住宅の省エネ化や資源・建材のリユース・リサイクルを推進すること

### 空き家を取り巻く総合的な対策について

- ① 防災性能の低下(倒壊、崩壊や火災のおそれなど)
- ② 防犯性能の低下(犯罪の誘発など)
- ③ ごみの不法投棄や衛生状態の悪化(蚊、ハエ、野良猫の発生など)
- ④ 景観の悪化
- ⑤ 植物の繁茂(樹枝、雑草、落ち葉の発散など)

### 空き家の活用に向けて

空き家に関する困りごとの解消に向けては、次のような方法が考えられる。一つは、空き家の状態が不良で利活用ができないものについては除却すること。このタイプの空き家については、空き家等対策措置法による対策が考えられている。愛媛県においては、平成27年度から愛媛県特定老朽危険空き家等除

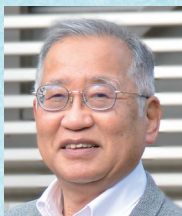
### 愛媛県の空き家の現状

愛媛県における空き家の問題は、深刻なものとなってきている。平成30年の住宅・土地統計調査によると、空き家率(二次的住宅を除く)は17.6%(全国平均13.0%)と全国5位の順位にあり、さらにその増加率は全国値を上回っている。また、空き家を種類別にみるとその他の住宅が多くなっている。(左図参照)

これらの空き家については、引き続き住宅として使用できるものから廃屋に近いものまである。さらに戸建てや共同住宅、店舗や

## 空き家対策の新たな可能性を探る 遊休資産の有効活用による地域の活性化

愛媛大学地域協働センター南予副センター長 前田 眞



### はじめに

大洲の城下町に点在する空き家となった歴史的古民家を活用しホテル群とする取り組みが、今年「世界の持続可能な観光地」の「文化・伝統保全」部門で世界1位となりました。

人口減少時代を迎えて、空き家や空き店舗、遊休施設などは増加の一途をたどり社会問題となっていますが、このように老朽化又は遊休状態となっている資産を、官民連携により活用する取り組みや、民間主導で空き店舗を活用して商店街の賑わいを取り戻そうとする取り組みなどが、昨今見受けられます。

また、移住者や地域おこし協力隊が地域住民を巻き込んで、古民家や廃校などを住民交流の拠点やゲストハウスに改修し、移住交流人材の発掘につなげようとする取り組みも、マスコミで取り上げられています。

今号では、いわゆる「空き家対策」を都市景観や防災上の課題としてではなく、地域の経済活性化や地域活力の創造に資する資源として活用する県内外の取り組みを紹介しております。皆さんの地域において、新しいまちづくりを考えるきっかけづくりとなれば幸いです。

(アドバイザー 徳田 桃子)

### 表紙のことは

長かったコロナ禍がようやく明けつつあり、お祭りやイベントなどが再開して、多くの地域で夏の風物詩が帰ってきました。マスクの下に隠れていた子供たちの笑顔や笑い声が、地域の賑わいに華を添えてくれます。空き家の活用といっても使い道は多種多様。ただ、地域に賑わいを生み出したい人々の想いは、どこの地域でも共通しているのではないのでしょうか。人が住まなくなった家は、朽ちてしまうのも早いと言います。校庭に人が集まり、地域に人が集まる。そんなあたたかいまちの未来を七夕の短冊に願いを込めて。

柳原 あや子

### ●アングル

空き家対策の新たな可能性を探る……………1  
 ～遊休資産の有効活用による地域の活性化～  
 前田 眞/愛媛大学地域協働センター南予 副センター長

### ●特集/『空き家対策の新たな可能性を探る』 ～さまざまな取り組みから生まれる地域の賑わい～

- ① 空き家問題解決に資するゲーミフィケーションの可能性……………4  
中嶋 直哉/一般社団法人広島空き家流通促進ネットワーク 理事・行政書士
- ② 空き家・空き店舗の活用と街の活性化……………6  
市原 正人/株式会社ナゴノダナパンク
- ③ 「空き家対策の新たな可能性を探る」……………8  
～空き家資源から生まれる地域のにぎわい～  
㈱愛媛銀行 公務ふるさと振興部 ほか
- ④ 空き家を地域資源とみなし、住居と仕事に変える試み……………10  
平田 浩司/みちしおプロジェクト/かみじま町空き家よくし隊
- ⑤ 変わらず地域の真ん中にあるのは、この場所……………12  
熊野 円香/みそぎの里 事務局

### ●地域おこし協力隊 リレーレポート

建物の想いを次の世代につなぐ空き物件の活用を……………14  
 ～空き資源から生まれる地域の賑わい～  
 福地 立憲/今治市地域おこし協力隊

### ●えひめ暮らしネットワーク通信

えひめ暮らしネットワークの活動について……………16  
 鍋島 悠弥/一般社団法人えひめ暮らしネットワーク

### ●特選ブログ/shin1さんの日記

空き家対策の新たな可能性を探る……………18  
 若松 進一/人間牧場主・年輪塾々長

### ●“MY TOWN” うおっちゃんぐ

坂本榮太郎、その人と作品…えひめ彫塑家事情……………20  
 岡崎 直司/タウンツーリズム講座主宰・近代化遺産活用アドバイザー

### ●令和4年度まちづくり活動アシスト事業報告

新しい視点との融合による、これからの地域の観光交流……………22  
 ～五十崎企画委員会の発足と狙い～  
 稲月 道隆/五十崎企画委員会 会長

今だからできる!……………23  
 ～未開発地帯の治療が人を育て「活力をミライ」へつなぐ!～  
 近藤 和明/みらいの関川を考える会 会長

地域イベントでまちの活性化を!!……………24  
 ～「玉の子音頭の復活」と「うざい祭り」～  
 越前 章浩/うざい祭り実行委員会 会長

第一回 SDGs員絵アートコンテスト・展示会(施設展示とウェブ展示)……………25  
 霜村 一郎/一般社団法人宇和島SDGs社会教育事業団 代表理事

### ●Information センターからのお知らせ

- ・ボランティアで集落と繋がる
- ・賛助会員募集
- ・賛助会員紹介
- ・インターネットによる情報発信強化中!!
- ・「えひめ地域づくり研究会」会員募集中!
- えひめ地域活力創造センター……………26



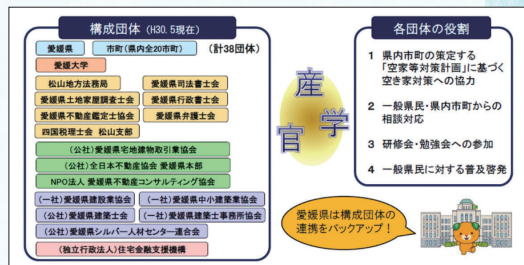
却促進事業費補助金制度を整備し、市町の除却に対する支援を行っている。

もう一つは利用可能な空き家についての対策である。用途を変えたり、そのまま住宅として利用することが基本になる。

愛媛県では、空き家対策を進めるために、平成30年から「空き家対策ネットワーク」を組織し、相続等の民法上の問題、資金・税等の問題、不動産に関する問題等、特に行政機関のみでは解決に導くことが困難なものについて、民間の専門機関及び関係団体との協力を得て、その対策にあたっている。

さらに、愛媛ふるさと暮らし応援センターが中心となって以下のような取り組みを行っている。

- ① 空き家情報の提供  
県内の空き家情報を移住希望者に提供するサイトを運営
- ② 求人情報の提供  
愛媛で働くとしたら、どんな仕事があるのかなどの情報を提供
- ③ えひめの紹介  
愛媛県の市町の状況を伝え、暮らしを取り



愛媛県空き家対策ネットワークのイメージ

り巻く環境について発信している。

④ えひめ暮らしの発信  
えひめ暮らしに関するフェアを東京、大阪などでのリアル開催やオンライン等で開催している。また、テレワークやワーキングスペースに関する情報発信も行い、多様な働き方ができることも伝えていく。

⑤ えひめ暮らしの先達の経験を発信  
すでに愛媛暮らしを実践している人たちの生の声を発信し、愛媛で暮らしやすいイメージを持つてもらっている。

⑥ えひめ暮らしの相談受付  
東京・大阪・愛媛にえひめ移住コンシェルジュは配置し、移住に関する様々な相談を受け付けている。また、県内の各市町に配置されているえひめ地域移住相談員と連携して、移住者の相談や受け入れを行っている。

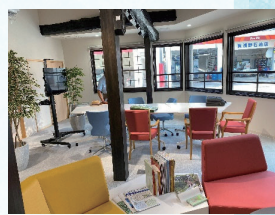
空き家の活用事例

⑦ 様々なコミュニティづくり  
移住に関するメルマガの発信やFacebookページを開設し、愛媛に関心のある仲間づくりを促進している。

《公設公営型の鬼北町コワーキングスペース「warmth」》  
鬼北町で、観光振興および起業創業支援等による地域振興を目的とした公設公営型の拠点として整備されたコワーキング・ワーケーションスペースである。町内外の来訪者が集い、交流できる場を創出し、「人の流れ」



warmthの全景



warmthの内部

を生み出すことによる地域の活性化に貢献することを目的に設置されている。鬼北町が空き店舗等を改修して整備を進めた施設である。これは、「働く・泊まる」を兼ね備え、雇用機会の創出や移住定住の促進、新しい産業の創出を目指している事例である。鬼北町の地域計画に基づき、隣接したところに町が設置した空き家を活用した公営塾「お鬼塾塾」があり、北宇和高校生徒と連携しながら、JR予土線近永駅周辺のコミュニティ拠点の形成に取り組んでいる。

《野村町バー&ゲストハウス「ento house」》

野村町の古民家を改修した民設民営型のバー&ゲストハウスである。「ento」は「遠く」という意味で、ずっと先まで、このまちを、文化を、そしてこの地球を残していけるように、そんな想いをもってこの名前を付けられたこと。また、「entrance入り口」のように、野村町と外の世界との間のような場所であり、野村町のおもしろいヒト・モノ・コトを伝えていき、世界とつながり時には混じり合う、そんな場所を目指している。

そこで提供されるサービスは、野村町らしくお酒を介したコミュニケーションの提

供が秀逸である。そこで生み出される「遠く凶らい」は、共創型のまちづくりが生み出される期待を抱かせるものになっている。さらに、宿泊機能だけでなく野村町の散策、野村町の情報提供などの機能を合わせ持つとともに、将来的には特産品の販売等の拠点にしようとしている。



エントハウスの様子



エントハウス・パースペースの様子

空き家対策の新たな可能性

空き家対策については、行政機関と地域おこし協力隊をはじめとする思いを持って取り組もうとする人たちとの連携によって県内各地で事例が生まれてきている。

公設公営型の場合は、自治体による総合的な取り組みが求められ、地区計画等の作成により、地域の将来の姿を関係者間で共創していくことが重要である。地区計画の策定にあたっては、SDGsやそれに伴う環境問題や働き方改革への対応等に配慮し、使いたいというニーズへの配慮もしながら空き家活用を推進していくことが望ましい。より具体的にいえば、自治体が主体となって、移住や観光振興、福祉などの分野に関して、地域の将来イメージを共有し、それらの実現に向けた環境整備を行い、それらの目的

に向かつて地域の資産としての空き家、空きスペースを活用する取り組みをしていくことが求められる。

また、民設民営型の場合は、民間に任せるだけでなく、自治体による総合的な取り組みで支援するとともに、子育て世帯や高齢者世帯等向けの支援につながる空き家の活用、既存住宅の流通を促進するための制度づくり、リフォーム市場等の整備などの環境整備を行う必要がある。具体的には、個人が行う空き家活用においても、平成30年の建築基準法の一部改正によってその敷居が下がってきている。改正点は、以下のようなことである。

- 空き家を福祉施設や商業施設などに用途変更する際に、大規模な改修工事を不要にする点
- 従来まで「100㎡未満」の戸建てに限り、住宅を店舗などに用途変更する際の建築確認手続が不要だったものを「200㎡未満」に見直し
- 200㎡未満かつ3階以下の戸建てを福祉施設にする際、避難経路を確保することを条件に、耐火建築物とすることを不要にする点がある。

このような支援策を多様な場面で用意することが求められる。

さらに、資金調達においてインターネット上から資金を募る「クラウドファンディング」を使うケースが多くなってきた。空き家の活用をしようとしている人に寄り添う形で、この仕組みを利用しやすくしてい

く環境づくりも求められているところである。

空き家の維持・管理は難しいが、人が出入りするだけで建物の維持につながったり、活用の仕方によっては、そこであげられる収益で必要な財政的負担を減らすことができたりする。例えば、単なる賃貸住宅ではなくシェアハウスとして活用することによって、住宅に困っている人たちの家賃負担の軽減やそこで起きる化学反応に似た共創型の活動の展開が期待できる。さらに、民泊やコワーキングスペース、カフェなどの活用についても、単なる空き家活用ということだけでなく、そこで集まることによって、ファシリテーター次第では当該施設の利用者の利益につながる点とともに、地域にある様々な課題の解決につながる、地域そのものが活性化される可能性がある。

現在、空き家問題の深刻化とそれを受けた法改正などにより、空き家活用の多様化が進んできている。空き家活用の支援については、空き家を取り巻く立地をはじめとする諸条件に配慮しながら、その方向性を確認していくことになる。空き家活用の方向性やビジネスモデルの構築にあたり、地域の特性に応じた相談、アドバイスを行う仕組みを作っておくことが必要である。このような「中間支援機能」を地域に備え、今ある空き家を必要の人へとつなぎ、そこでの新しい物語を紡いでいくことによって、空き家対策の可能性が広がっていくものだと考えている。今後の空き家活用が進むことを祈念して。

1 特集

空き家問題解決に資するゲーミフィケーションの可能性

一般社団法人広島空き家流通促進ネットワーク 理事・行政書士 中嶋 直哉



私たちは、広島県東広島市を拠点としており、空き家に関する様々な問題の解決に取り組む専門家ネットワークとして、2020年4月に任意団体としての活動を開始しました(2023年1月に法人設立)。メンバーは宅地建物取引士、司法書士、行政書士等の有資格者や、地域や行政との連携を支える地域コーディネーターで構成しています。適宜、廃棄物処分業者や建設関連事業者等の多様な事業者と連携しながら活動を続けています。

空き家は全国的に増加を続けています。管理に費用や手間を要し、手放したくても手放しにくい。その結果、放置されることが増え、建物の劣化等が進むことで、害獣等のすみかとなることや不法投棄を誘発し、景観や治安の悪化にもつながることもしばしばあります。

しかし、空き家にはこうしたマイナスの側面がある一方で、人と空き家が出会い、その人が空き家を使い始め、居住や事業の拠点とすることで、地域の賑わいや担い手を創出してくれるようなプラスの側面もあります。家主がいなくなつてから、新しい「誰か」や「何か」とつながることができないために、所有者や地域にとつての「問題」として空き家が扱われている現状があると考えています。

そこで、私たちは、空き家を未活用資源として捉え、空き家の流通を促進することで、地域活性化の起点にすることを目的として、団体活動の開始に至りました。

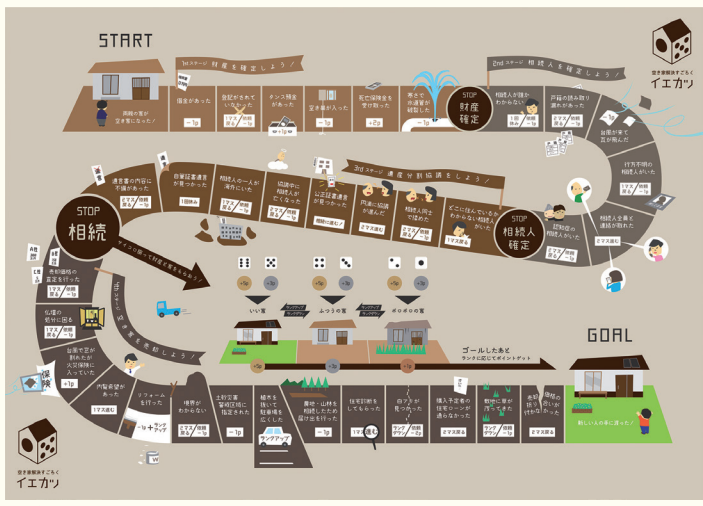
最初に取り組んだことが、空き家問題に関する啓発活動でした。そのために制作したツールが「空き家解決すごろくイエカツ(以下、「イエカツ」という)です。制作にあたっては、令和2年度空き家対策の担い手強化・連携モデル事業(国土交通省)を活用させていただきました。

空き家は非常に身近な存在です。いま自分が暮らしている家。いま両親や祖父母が暮らしている家。自分に身近な人かと思いついてみると、ひとりも持ち家に住んでいない人は意外と少ないのではないのでしょうか。

平成30年住宅・土地統計調査(総務省)によれば、住宅全体に占める割合「持ち家住宅率」は61.2%。また、空き家取得の経緯で一番多いのは相続です。令和元年空き家所有者実態調査(国土交通省)では、54.6%が相続であると示しています。これらデータから、将来的に、空き家を遺し、また空き家を託される可能性のある人は多いことが読み取れます。

身近だけれども、なかなかわかりにくい空き家。遊びながら学べるツールとしてイエカツを制作しました。エカツを制作しました。イエカツでは、相続による空き家発生から売却までの流れをすくなくして、「財産を確定しよう」、「相続人を確定しよう」、「遺産分割協議をしよう」、「空き家を売却しよう」の4つのステージに分かれています。

それぞれのステージごとに、様々なマスを用意しています。マスの例としては、「相続人同士で揉めた」や「公正証書遺言がみつかった」など、空き家対策に取り組む専門家の意見交換を経て、空き家発生から流通まで



すごろく盤

に発生し得る出来事を詰め込みました。正直に申し上げると、アクシデントのマス目ばかりです。スムーズにはいかないのですが、イエカツを使用しただけで、ワークショップでは参加者同士があれこれと疑問や感想、自身でも苦労した体験などを話し始めます。イエカツを通じて、当事者として空き家問題を俯瞰し、その大変さを感じることができず。その結



ワークショップ①



ワークショップ②

果、ワークショップ後には、参加者からは「こうならないように今からできることは何か?」とわが事として捉えた個別相談を多くいただいています。

空き家対策にイエカツのようなゲームを取り入れることにより、題材である空き家を身近に感じられるとともに、楽しみながら取り組むことができます。なかなか他人に話せない不安がぼろっとこぼれてきて、個人が抱え込んでいた家の不安や問題を地域で共有し、それを私たち専門家チームが拾い上げることで、新たな空き家発生の抑制や空き家の市場流通に繋がれるところに、大きな価値を見出しています。

わたしたちの今後の展望

現在、私たちは広島県東広島市内の中山間地域にモデル地域を設定し、現地の地元自治組織と連携して、活動に取り組んでいます。イ

エカツを制作しました。イエカツでは、相続による空き家発生から売却までの流れをすくなくして、「財産を確定しよう」、「相続人を確定しよう」、「遺産分割協議をしよう」、「空き家を売却しよう」の4つのステージに分かれています。

それぞれのステージごとに、様々なマスを用意しています。マスの例としては、「相続人同士で揉めた」や「公正証書遺言がみつかった」など、空き家対策に取り組む専門家の意見交換を経て、空き家発生から流通まで

エカツのワークショップは、あくまで空き家対策の手段のひとつです。これに、空き家予備軍の事前登録制度や移住者マッチングツアー等を組み合わせていくことで、新たな空き家発生の抑制やマッチングする空き家の件数を増やしたいと考えています。モデル地域での実績を積み上げ、こうした実績を基に、行政との連携も進め、更には他地域への水平展開も見据えています。

目指すは、空き家を起点とした、無理のない地域活性化が各地で起こっている未来づくりです。空き家は重要な地域資源です。地域資源として十分に活用され、空き家を所有する人も、空き家を活用したい人も、空き家が所在する地域も、みんなにとってのWINがある状況を築いていきます。

エカツのワークショップは、あくまで空き家対策の手段のひとつです。これに、空き家予備軍の事前登録制度や移住者マッチングツアー等を組み合わせていくことで、新たな空き家発生の抑制やマッチングする空き家の件数を増やしたいと考えています。モデル地域での実績を積み上げ、こうした実績を基に、行政との連携も進め、更には他地域への水平展開も見据えています。

エカツのワークショップは、あくまで空き家対策の手段のひとつです。これに、空き家予備軍の事前登録制度や移住者マッチングツアー等を組み合わせていくことで、新たな空き家発生の抑制やマッチングする空き家の件数を増やしたいと考えています。モデル地域での実績を積み上げ、こうした実績を基に、行政との連携も進め、更には他地域への水平展開も見据えています。

空き家現地ツアーちらし

まなびガイド

あそびガイド

イエカツロゴマーク

一般社団法人 広島空き家流通促進ネットワーク

所在地 広島県東広島市西条西本町12-1 播磨ビル102

連絡先 infoakiya@akikatu.net

WEB https://www.akikatu.net/

# 特集 2

## 空き家・空き店舗の活用と街の活性化

株式会社ナゴノダナバンク 市原 正人



### ナゴノダナバンクの成り立ち

空き家・空き店舗が増加し、人通りがないほかに廃れてしまった円頓寺商店街。2007年、それに危機を感じた地域内外の人たちがかつての活気を取り戻そうと総勢20名の「那古野下町衆」(通称・那古衆(なごしゅう))が発足された。主な活動としてイベントの企画運営や誘致、防災、商店街活動、マップの作成、空き店舗対策などの取り組みがある。この中の、空き店舗対策チームがナゴノダナバンクの前身である。チームとして空き家・空き店舗の対策を始めたのは良いが、月に一度の定例会で合意形成を得るのは大変難しく、早くても数カ月は掛かってしまい気が付いたら空き家・空き店舗は解体!これの打開策として少数でタ



2003年衰退した商店街

イムリーな活動ができるよう部会組織として2009年にナゴノダナバンクが誕生した。**円頓寺商店街と界隈の活性化にあたって**

空き家・空き店舗を活用し街を活性化する際に意識していることは街の魅力を壊さないよう記憶を残すリノベーションをベースに行うことである。地域の魅力の1つ目は、歴史的な街並みがあることだ。古い街並みには、文化的な価値があるものだけでなく昭和の街並みなど地域の人の原風景としての街並みも活かすべきであると考え



歴史的街並み

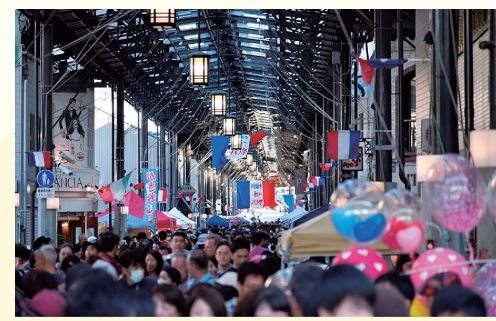


バーのある昭和の長屋の景色



昭和の原風景

ている。2つ目は、老舗が多数残っていることである。新しくできた店とのコントラストは時代を生きてきた街の奥行きを感じることが出来る。3つ目は、名物店主がいることである。「この人から買いたい!」と、わざわざ店主に会いにお店に来る人が多いのが特徴で、誘致する店舗も多数のファンを持つ店主の存在が魅力のひとつとなる。4つ目は、祭事が残っている。



商店街の祭りとなった円頓寺秋の祭り



地域内外が連携し改修されたアーケード

ることである。商店街には60年以上の歴史があり、地域の人が一丸となって行っている七夕祭りがある。これら4つの地域の魅力を壊さずに活性化を目指している。

また、時間をかけて活性化することも重要である。衰退した街の老舗は、長年変わらず頑なに商売を続けてきたように思えるが、実は時代の流れに合わせて商品・サービスを徐々に変化させ生き残ってきたらしい。再開発などの急激な変化に耐えられず消滅の危機にある商店街の取り組みとは違った、店が変化に対応できる緩やかで時間をかけた取り組みであることが重要である。

### プライドを失った街の再生

地域を活性化することで苦勞をしたことは、空き家・空き店舗を貸してくれる大家が少なかつたことである。魅力を失った街の物件所有者は、借りたい人などいる訳がないと思っいて、活用することなど考えることもなかつた。そんな所有者からすると、よそ者から活性化のために貸してほしいと言われている「裏があるのでは?」と怪しむだけで誰も



古ビルを活用したアーバンワイナリーとルーフトップバーから見る商店街と名駅の夜景

耳を傾けてくれなかつた。この経験から、ただ貸してほしいと言葉だけでなく、所有者が意思表示のできる資料を持っていくようにした。例えば、事業者を自ら探して連れて来ることや、どのようなお店になるのか分かるように図面を作成、どれ程の利益があるかなどの事業計画、賃料の提示などである。このような具体的な提案をすることで大家が納得して貸してもらうことができた。



ボルダリングジムに改修された木造2階建の旧オーディオショップ

また、開業後の問題をサポートすることも大事で、地域、事業主の不安を一緒に考えて解決するようにしていった。その結果、街からの信頼を得ることができ、他の空き家・空き店舗の紹介にも繋がった。

### 商店街や界隈が活性化されて

地域の活性化には那古衆やナゴノダナバンクの力だけでなく、物件の所有者と事業者の力無しでは活性化できなかった。当たり前ではあるが物件として貸してくれる大家、出店してくる事業者がいないと取り組み自体が成り立たないからである。「衰退した街で商売する人など居るのか?」そんな疑心暗鬼の中で貸し

### 色褪せない魅力を保つために

ナゴノダナバンクが始動する数年前、この界限の空き家・空き店舗は増え続けている状態だった。現在では特徴ある店舗ができて、空き家・空き店舗は減少し取り組みの成果は出ているが、活性化するにつれ不動産価値が上がり出店できる業態も限られるようになってきている。同じような業態店舗の誘致ばかりでは数年後には多様性を失い、つまらない街になってしまう危険性がある。そうならば再び空き家・空き店舗が増加してしまうのではないかと危惧している。この負のループに陥らないように現時点から先を考えて、街の魅力のひとつである商・住の共存を視野に入れた取り組みにシフトしていく必要がある。

これからもナゴノダナバンクは色褪せない魅力を創り続けられるよう、地域の人、事業者と連携して活動を続けていきたい。

3 特集

「空き家対策の新たな可能性を探る」  
～空き家資源から生まれる地域の「にぎわい」～

(株)愛媛銀行 公務ふるさと振興部 ほか

「空き家を取り巻く現状」

日本では、近年、空き家が増加しています。特に、居住者の転居や入院などにより長期不在となり、また、取壊し予定となった住宅物件がこの20年間で、182万戸から347万戸(平成30年、総務省・住宅・土地統計調査)へと約2倍に増加しています。空き家が増加すると、倒壊や崩壊、放火などにより保安上の危険が増し、またごみの不法投棄や景観の悪化などにより地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼします。

空き家は、大きく分けて、①売買・賃貸が可能な物件、②管理が不完全である物件、③倒壊の危険がある物件に大別できます。①の売買賃貸可能物件は民間不動産仲介業者や空き家バンク(国交省「全国版空き家・空き地バンク」)により流通させることが可能ですが、②、③の管理不完全物件、倒壊危険物件は流通させることができずその数の削減が大きな課題となっています。このため、国は、空き家の増加抑制に向け、倒壊のおそれがある家屋のみならず、手入れが不十分な家屋も固定資産税軽減の対象外とする方針です。

条件を満たせば、国や地方自治体の空き家の利活用・解体に対する補助金を活用することもできますが、一定の限界があります。空き家の

3Rであるリユース(売却、賃貸)、リメイク(増改築、修繕)、リサイクル(取壊し、新築)を行うにはいずれも資金が必要であり、この資金問題をクリアすることが空き家対策の重要なポイントです。

「愛媛銀行の取り組み」

当行は、高齢者が良質な住環境で生活できることが空き家数の削減につながると考え、高齢者の資金調達手段として住宅金融支援機構と連携したノンリコースの「リバースモーゲージ型住宅ローン」を四国で初めて商品化しました。そして、2018年12月に、当行と四国中央市、住宅金融支援機構との三者で空き家等対策のための金融支援に係る連携協定を締結し、2019年9月には伊予市とも同様に連携協定を締結しました。

こうして、自治体と金融機関が連携することで空き家問題の相談窓口が広がり、加えて、空き家対策に向けた相談会・イベントを支援し情報発信することで自治体にとっても施策効果が拡大するメリットが生まれるものと期待しています。

2023年1月には、空き家対策に幅広く対応するため、空き家の有効活用を目的として「リフォームローン空き家対策プラン」及び

【表：空き家対策商品の概要】

商品名	リフォームローンプラン空き家対策プラン	あったか住宅ローン空き家対策プラン
お借入れ期間	6か月以上15年以内(6か月単位)	1年以上50年以内(1年単位)
お借入れ利率	愛媛銀行窓口でお尋ねください。	
お借入れ金額	10万円以上1,000万円以内(1万円単位)	10万円以上1億円単位(1万円単位)
ご利用いただける方	お申し込み時、満18歳以上65歳以下の安定継続した収入のある方(年金受給者を含みます。)その他の条件については、愛媛銀行の窓口でお尋ねください。	お申し込み時満18歳以上満70歳以下で、完済時満81歳以下の方。その他の条件については、愛媛銀行の窓口でお尋ねください。
ご利用できるお使いみち	お申込み人又はご親族(配偶者又は3親等以内の血族)が所有する空き家に関する以下の費用 ・空き家物件の購入費用 ・リフォーム費用 ・諸費用	・本人又はご家族が所有する空き家を有効活用(居住・賃貸等)するためのリフォーム費用 ・所有者(賃貸人)が認めた賃借人による空き家リフォーム費用
その他	その他の条件や手数料、団体信用生命保険に関するにつきましては、愛媛銀行の窓口でお尋ねください。	

それぞれの商品の詳細は、左表のとおりです。また、前述しましたリバースモーゲージ型の商品につきましては、「ノンリコース型リバースモーゲージ」あつたか人生「住宅ローン」と「リコース型リバースモーゲージ」あつたか人生「フリーローン」の2種類の商品をご用意しております。

これらの商品は、債務者の方が所有する物件を担保としてご提供いただき、生前はお利息のみをお支払いいただくことでお支払い額を低く抑えます。亡くなられた際は担保としてご提供いただいた物件を売却してお借入れ額をご返済いただく商品です。相続予定のない物件を担保としてご提供していただき、売却を保証会社が行うことで、高齢者の方のご負担を軽減し

て資金ニーズにお応えする内容になっております。

「銀行店舗から地域の「にぎわい」を創る」

当行では、地域の「にぎわい」づくりを目的に、銀行店舗や駐車場の利活用に取り組んでいます。2021年4月と7月に、愛媛キッチンカー協会様のご協力を得て、「水曜日キッチンカーの日」・inひめぎん駐車場」と銘打って、県内数カ所の店舗駐車場においてキッチンカーによる移動販売を開催しました。あいにくコロナ禍の真只中でしたが、経営に深刻なダメージを受けた飲食業の皆さまの支援という側面に加え、ご来店されたお客さまや近隣にお住まいの方、お勤めの方に、自粛生活でも気軽に立ち寄れる、「味わい」と「にぎわい」を提供する機会となりました。

また、2022年5月に、多様化するライフスタイルをサポートするために、株式会社三福快適生活様との連携により、来住支店の駐車場内にレンタルボックスを設置しました。さらに、同年7月には、生活に密着したサービスによりお客さまの利便性を向上することを目的に、株式会社清水屋様との連携により、砥部支店・桑原支店の駐車場内にコインランドリーをオープンしました。これらの企画は、女性タスクチーム「ひめのわ」地域活性プラスワン」が提案したアイデアが実現したものです。「ひめのわ」では、銀行店舗、駐車場、空きスペースの利活用について、お客さまとの会話を通じて得られた気付きや女性からの視点を採り入れ、地域に相応しい異業種連携を提案しています。

「あつたか住宅ローン空き家対策プラン」の取扱いを開始しました。

「愛媛銀行の取扱い商品」

「あつたか住宅ローン空き家対策プラン」  
県内の多くの自治体では、移住促進を目的に「空き家バンク」を運営しておりますが、当行のこのローンは、自治体の空き家バンクに登録されている物件を購入する時の費用や、家族が所有しているが長年居住していないことから住めなくなった物件のリフォーム等の費用にご利用いただけます。

借入金額は10万円以上1億円以下となっていて、大規模なリフォームにも対応する内容となっております。

「リフォームローン空き家対策プラン」

このローンは、空き家物件を地方で所有している場合に、その物件を別荘や宿泊施設として貸し出すことを目的としたリフォームの資金にご利用いただけます。

借入金額は10万円以上1,000万円以内と「あつたか住宅ローン空き家対策プラン」と比較すると少額ですが、賃貸用のリフォームなど幅広いニーズにお応えする内容となっております。

さて、近年の

IT技術の進化や地域人口の減少などを受けて、銀行店舗の役割も変化を求められています。スマホやパソコンなどによる非対面の金融サービスが拡大する一方で、有人店舗やATMなど従来型のインフラをお客さまの利便性を維持しながらどのように活用していくか、との課題に対し、当行では、銀行店舗に異業種との連携を通じて地域の「にぎわい」の拠点となる機能を持たせるなど、「地域と共存する地域金融」の将来像を描いていきたいと考えています。

「地域金融機関として」

当行は、お客さまに寄り添い、持続的に地域貢献を果たしていくことが使命と考えています。今後も空き家問題の相談や啓発活動を継続的に行い、加えて、自治体と連携した移住定住者向け居住数の確保、古民家再生といった地域活性化につながる地域価値の共創の実現に向け取り組んでまいります。



砥部支店駐車場にコインランドリーがオープン (2022年7月)



にぎわいを見せるキッチンカー販売 (2021年4月)

特集 4

空き家を地域資源とみなし、住居と仕事に変える試み

みちしおプロジェクト／かみじま町空き家よくし隊 平田 浩司



「ゲストハウスみちしお」リビングルーム

今年の春に上島町の弓削島でオープンした「ゲストハウスみちしお」の建物は長い期間、空き家の状態で放置されていました。改修工事では、いくつかの部屋で畳敷きをフローリングにするなど大幅に手を加えましたが、キッチンや風呂、2階のシングルルームなど、ほとんど手を入れていない所もたくさん残っています。天井や壁の至る所で、築40年以上となる元の建物の面影を見いだします。この建物は、弓削島や生名島から多くの人たちが因島の造船所に通勤していた時期に建てられており、建てた方も因島で働いておられました。私はこの建物で時間を過ごすときによく、その頃の弓削島の生活を想像します。縁あって、空き家だったこの建物をゲストハウスとして活用させていただくことになり、建物を通して地域の歴史とつながったような気がしています。

ゲストハウスのオープンから、およそ3か月が経過しようとしています。ほとんど毎日、このゲストハウスで過ごすようになった今、私が思うのは、空き家にただ改修を施すだけでは十分ではなく、人がそこで実際に生活するようになって初めて、家屋は「暮らしの空間」へと変質し、その住み心地は日々良くなっていく、ということです。

協力隊としての2つのゴール

私は、令和2年4月から令和5年3月までの3年間、上島町で島おこし協力隊として勤務しました。移住相談や空き家バンク運営などを業務内容とするミッション型での勤務でした。協力隊に応募した時点より、任期の終了までに達成しようと決めていた2つのゴールがありました。ひとつは、任期終了後も地域に住み続けるため、空き家を改修して、生業としてのゲストハウスを開業する、というものでした。もうひとつは、任期中の空き家問題への取り組みを任期終了後も継続できるように、活動の基盤となる団体を設立する、というものでした。前者は「ゲストハウスみちしお」として、後者は「NPO法人かみじま町空



NPOメンバーと撮影

き家よくし隊」として形にすることができました。空き家は、住居として使用できるだけでなく、私のようにゲストハウスとして使用するなど、事業用の店舗などの建物としても使用できます。ですが、人が住まなくなった空き家の状態は急速に悪化し、最終的には、お金をかけて解体するしかない



協力隊任期中に実施した町内空き家の実態調査

という状態に至ります。「譲る」「売る」「貸す」という、空き家活用についての決断が遅れると、「解体する」の一択しか選択肢が残らなくなってしまうのです。

上島町は、瀬戸内海に浮かぶ離島によって構成されており、風光明媚、自然豊か、よそ者を受け入れる気風もあって、尾道や福山といった都会にも近いという条件も備えており、移住先としてもっと人気があってもおかしくはないと思っています。ですが阻害要因として、移住者が買ったり借りたりできる空き家はほとんど無く、また勤め先の情報を見つけないことも容易ではない、つまりは仕事がありません。すぐに住むことのできる空き家を紹介することができ、また、仕事情報を提供することが

できれば、上島町への移住者はさらに増えると考えます。どちらも簡単なことではありませんが、今できることからやってみようとして取り組んできました。

住居と仕事をつくる

私は協力隊の任期中に、先述のとおり「NPO法人かみじま町空き家よくし隊」を設立し、またゲストハウスを運営する会社として「合同会社みちしおプロジェクト」を設立しました。「かみじま町空き家よくし隊」の方は、主にDIYにより空き家をすぐに住むことのできる状態に改修



「マンガの島」高井神島



改修途中の「ゲストハウスみちしお」

し、移住希望者に貸し出すことを主な活動内容としています。また「みちしおプロジェクト」では、まず弓削島でゲストハウスを開業しましたが、ゆくゆくは上島町を構成する生名島や岩城島といった島々でもそれぞれゲストハウスを展開し、ゲストに町内の「アイランド・ホッピング」の体験を提供したいと構想しています。どちらも地域資源としての空き家を使った事業展開となります。NPOと会社の活動を通し、不足している住居と仕事をつくり出すことにより、移住者が増えて、それが地域社会の維持につながればと願っています。

協力隊任期3年目となる令和4年度には、「みちしおプロジェクト」としては弓削島で「ゲストハウスみちしお」を、「かみじま町空き家よくし隊」としては生名島で移住希望者向けの賃貸住宅を、また高井神島で「地域交流拠点」としての活用を予定する建物を整備することができました。協力隊の任期が終了した今、会社として、またNPOとして、空き家の利活用を通して、地域貢献あるいは地域との協働を進めていきたいと考えています。

# 5

## 変わらず地域の真ん中にあるのは、この場所

みそぎの里 事務局 熊野 円香



### 閉校〜プロローグな5年間

「みそぎの里」こと「旧御祓小学校」は、2014年3月に閉校した地域に唯一の小学校。学校行事は地域みんなの行事、いつでも御祓の中心はこの小学校にあり、地域の方たちにとっては特別に思い入れのある場所です。



秋の稲木干しの風景の向こうに見えるみそぎの里

私が「御祓地区の活性化」をミッションに、地域おこし協力隊として着任したのが2019年2月。閉校の3年後から旧職員室を活用した月に2回のカフェ事業が始められており、地元有志の女性たちが試行錯誤していました。うどんとコーヒーマシンの提供をするも、営業日に来るお客さんは1日10人にも満たない、営業していること自体を知ってもらえていないのが現実でした。しかし私にとっては、着任した地域にすでに「コミュニティスペース」なる場があるラッキーな状況で、あとはここをどう上手く活用していくか、に早速取りかかりました。

### ここでの、当たり前こそが価値

御祓地区は、生きた里山の風景が広がる地域です。そんな地区でありながら、当初のカフェでは地元産のものを使うわけでもなく、地域の産物たちは当たり前前のもすぎて見過ごされていました（田舎あるある）。しかし、自家産の採れたて季節野菜を使って日々食事を作っている「当たり前」こそが、私のようなよそ者から見たら何よりも魅力的！この背伸びしない「当たり前」の食卓をカフェで提供できたら、わ

ざわざこまで足を運んでもらう価値になるのではと、2019年5月にカフェをリニューアルオープン。メニューを営業日ごとの日替わり「季節の定食」一択にし、毎回そのタイミングで採れる食材を使った献立で、何度来ても楽しんでもらえる形にしました。リニューアルの甲斐あり、1日あたりのお客さんは平均して以前の4倍以上に。定食とともに、カフェの中で展開した野菜の直売もリピーター客の目当てになるほど喜ばれています。



直売の野菜は「安くて新鮮」とファンが多い



ある日の季節の定食

トや集会などの食事作りの依頼もいただくようになり、そうしたイベント時やカフェ営業日には御祓内外の方たちで賑わい、ようやく「コミュニティスペース」の名にふさわしい場ができてつづきました。そんな中訪れたコロナ禍にはヤキモキしましたが、新たに地域内での宅配食サービス事業を始めるきっかけになり、月に一度、地域の独居の方や高齢者など希望者を対象に、カフェで作ったお弁当を配達していく取り組みも行っています。

### 校舎を活かす

2021年からは、飲食事業に加え校舎全体の活用にも取り組み始めました。それまでは月に2回の営業日に、旧職員室の一室しか活用ができておらず、その他の教室たちを持て余していました。ありがたいことに「教室を使ってみよう」という個人の事業者さんたちから声をいくつももらっており、運営の母体となる「協議会」の立ち上げとほぼ同時に、4つの教室の活用が始まりました。教室活用の仕組みとしては、〈家賃なし、共益費月額3千円、光熱費ネット込み



図工室は和紙専門の印刷所に、など元の教室を活かした活動が展開される

〜という破格の利用料で借りられる代わりに、地域活性化の拠点であるこの施設で、校舎の運営を共同で行いながら、地域に還元できるような活動をするのが条件。地域には、圧倒的に若手が足りません。行事ごとや、田んぼや畑をしている（＝御祓の風景を作り上げている）人たちは、ほとんどが引退世代の方たちです。元々地域に若手が全くいないわけではないものの、働き世代の人たちは、住まいが御祓であつても外に仕事に出ていて地域の中で過ごす時間は少ないです。そうすると当然ながら、地域のことは自分ごとになりづらい。地域のために動く時間を取ることもし。

### 校舎から紡ぐ地域のこれから

幸運なことに、当初から入ってくれていた事業者さんたちがとても魅力的な活動をされていることもあり、取り組みをはじめから約1年で、募集をかげずとも11組の事業者さんたちが入っていただくことになりました。旧校舎という一つの建物の中で素敵なお店をいくつも回れるということか

ら、「文化祭みたい」「私たちも仲間に入りたい」という声もあり、実際に参入してくださったご家族がいたり、「面白いことをしている場所には自然と人が集まる」を体現する状況となりました。地域の方たちが大切にしてきたこの場所を、形を変えながらも、変わらず人が集い賑わう場所として生かし続けることで、この場所の存在が物理的にも精神的にも、地域にとってのよりどころであり続けられたいと願います。



みんなで盛り上げていきます





建物の想いを次の世代につなぐ空き物件の活用を  
空き資源から生まれる地域の賑わい

今治市の地域おこし協力隊に着任

私は2022年に埼玉県草加市から今治市へ移住し地域おこし協力隊に着任しました。今治市では活動内容を自由に決めて取り組むフリーミッションタイプで協力が隊員が多い中で「中心市街地の活性化」というミッションタイプで活動しています。普段は市役

所の中で職員の方と一緒に次年度の企画立案や、自身の取り組みを企画から実行までしてまいります。主に空き



まちと暮らしのいまはる会議の様子

埼玉県での活動

埼玉ではデザイン事務所を営みながら商店街の活動のサポートや職人の方と一緒に本格的なものづくりのワークショップイベントを主催するなど地域密着の活動をしていました。官民連携のまちづくりにも参画し、仲間とともに空き家を活用する会社を立ち上げ築50年の木造アパートをキッチンスタジオにリノベーションし現在も運営しています。開業当初は地域のダイニングキッチンとして料理教室をはじめとする食のイベントを通して多世代が交流する拠点として、現在はコロナ禍を経て創

業支援に力を入れており、本格的なお菓子を作って販売していきたい方に向けた菓子製造スペースとして多くの方に利用していただいています。



まちなかの公園で行った結婚パーティ



木造アパートをリノベーションしたキッチンスタジオ

今治市地域おこし協力隊 福地 立憲

ことへのやりがいを感じるきっかけになりました。移住する直前にまちなかの公園を使って自身の結婚パーティーを開催できたことが、埼玉での活動の1つの集大成のようにも感じています。

地域の人が気軽に利用できる交流拠点を

今後、私が進めたい取り組みの1つに、遊休公共施設の活用があります。学校の統廃合や老朽化など様々な理由で使われなくなった公共施設が各地で増えつつあると思います。耐震基準、リノベーション費用、維持管理費、運営管理事業者の選定などクリアすべきハードルが無数にあり、簡単に活用とはいかない現状があります。そのままにしておくことは非常にもったいないと考えています。資産売却を行い、活用を民間の事業者に委ねる方法

もありますが、事業内容によって利用できる人はごく一部に限られてしまう場合もあります。例えば廃校であれば、地域の人にとつ



自治体の遊休地を活用してイベントを開催

て想い出の詰まった大切な場所です。が卒業した後はほとんどの方が利用する機会がなくなります。それが賑わいや交流の拠点として生まれ変わり、誰もがいつでも利用できる場所となったら、こんなに素敵な事はないのではないのでしょうか。



デザインしたチラシやポスター

もし、コストが問題になるのであれば1つの教室から活用を始めてみる、耐震基準の問題であれば校庭の活用から進めてみるなどできることから少しずつ取り組みたいです。

また、教室毎に区画されているため、シェアオフィス、ギャラリー、書店、雑貨屋、アトリエ、飲食店など多様な事業を複合的に行うことが可能です。そのほかにも廃校活用の良い点として、敷地が広いということが挙げられます。大都市と呼ばれる所以の多くは日常生活に車の使用がかかせません。事業を始める、あるいは住むにしても駐車場がネックになることは多いですが、廃校

であれば駐車場の確保がしやすいです。

空き家を減らすために

空き家でも公共施設でも、建物は使われずに放置するとどんどん傷んでいきます。残念ながら全国で849万戸以上という非常に多くの空き家があると言われていて、中には倒壊の危険性のある物件も含まれています。

近年リノベーションという言葉が一般的になり、最近では京都市で空き家税が導入されニュースになるなど、「空き家」に対する関心が高まってきているように感じます。この機会にまず、私が今治市内の空き家を活用し事例を作りたいと考えています。物件が生まれ変わった姿をたくさんの人に見ていただき活用に向けて前向きになってもうえたら嬉しいです。もちろん、私一人ではできることが限られます。

地域の方、行政の方と一緒に空き家活用に取り組み、エリアマネジメントを進める次の世代へバトンを繋いでいくことが私の夢です。



山口県宇部市へ視察

えひめ暮らしネットワークの  
活動について

一般社団法人えひめ暮らしネットワークは、「愛媛に移住した人」「愛媛に移住したい人」たちをつなぎ支援し、より元気な地域が増えていくことを目指すネットワーク組織です。愛媛県への移住推進、地域おこし協力隊や移住者のフォロー、生業づくりや地域の活性化など、愛媛で自分らしく暮らし働く人たちをバックアップすることを目的に設立し、4年目を迎えました。「日直えひめ暮らし」として県内の地域おこし協力隊OB・OGが日替わりで担当する移住相談及び地域おこし協力隊相談窓口のほか、県や市町からの委託を受けての事業など、多様な場で活動を展開しております。

「えひめ地域おこし協力隊 自治体担当職員 交流研修会」の開催

えひめ暮らしネットワークは、愛媛県からの委託を受け、地域おこし協力隊や市町担当職員を対象とした各種研修を企画運営しています。

らの事例発表には、今治市伯方島エリアで活動2年目となる山之内由香氏に登壇していただき、着任当初の戸惑いや、それを乗り越えての活動の展開、任期後のビジョン等について等身大でお話をしていただきました。その後、参加した隊員ひとりひとりが自己紹介を実施し、名刺交換等の自由な交流するための時間を設けたところ、会場の中では多くの活発な交流が生み出されている様子が見受けられました。

その他の取り組みと今後の展望について

えひめ暮らしネットワークでは、市町からの依頼を受けての事業にも取り組んでいます。令和5年度の上半期においては、地域、協力隊員、行政の3者にとつてよりよい制度運用体制を構築するための地域おこし協力隊制度の導入支援事業や、おためし地域おこし協力隊の企画運営に取り組んでいます。また、地域の将来を地域のひとたち自らで考えるための先よみワークショップ（企画・合同会社暮らしと自治と創造）の運営、移住体験ツアー等の企画運営といった事業も展開しています。愛媛県の中間支援組織として、このような多彩な事業展開を図ることができているのは、個性豊か



えひめの多彩な人々や団体のハブとなる組織へ



一般社団法人  
えひめ暮らしネットワーク  
鋼島 悠弥



地域おこし協力隊初任者研修会

6月12日(月)には、東温市内にて、県内で活動する着任後1年未満の地域おこし協力隊員を対象とした初任者研修会を開催しました。県内では、現在、120名を超える地域おこし協力隊員が様々なミッションのもと各地で活動しています。特に、隊員初任者はそれぞれの人生における大きな決断をして県内に移住し、慣れない生活の中で、地域協力活動に従事していくこととなります。地域おこし協力隊は、地域・協力隊員・行政の3者で「想い」を共有することにより、隊員の円滑かつ有意義な地域協力活動につなげていくことが重要となる制度です。このため、初任者研修会は、現在活動している先輩隊員や隊員OBから、制度の基礎的な知識や、行政・地域・隊員の3者の関係づくりの必要性といった、隊員活動を円滑に進めるために必要となるポイントを学び、また、初任者同士の交流・情報交換等を通じて横のつながりをつくり、今後の充実した隊員活動につなげることを目的として実施しました。研修会には、33名の隊員と12名の市町担当

みなさま、今後ともえひめ暮らしネットワークをどうぞよろしくお願いいたします。

お知らせコーナー

一般社団法人えひめ暮らしネットワークでは、会員を募集しています。協力隊員、一般会員、賛助会員がごいますので、ぜひご登録ください。

また、当法人が運営する coworking スペース『COWORKING-HUB nanyo sign (南予サイン)』では、coworking会員の募集をしています。

南予サインは、愛媛県南予地域の玄関口である内子町に構える、移住相談窓口を併設した coworking スペースです。プロジェクトが生まれ、コミュニティに加わることでできる場所。みなさんにとっての大切な「ヒト・コト・モノ」に出会えるハブとなるよう、心地よい場所づくりを目指しています。こちらもぜひお気軽にお問い合わせください。

会員登録はこちらからどうぞ!

COWORKING-HUB nanyo sign について



人間牧場主・年輪塾々長 若松 進一

### 空き家対策の新たな可能性を探る

#### 民家の空き家

近年日本の各地では人の住まない「空き家」が年々増加の一途をたどっています。総務省の「平成30年住宅・土地統計調査」によると、2018年の全国の空き家は約849万戸で、総住宅数に占める割合(空き家率)は実に13.6%を占めています。空き家は①売却用・賃貸用、②二次的住宅、③その他の住宅に分類され、そのうち、「①売却用・賃貸用」は住む人がいなくなった家の買い手や借り手を探している空き家を指します。また「②二次住宅」は別荘など普段は人が住んでいない家のことで空き家に分類されていますが、基本的には所有者が利用や管理をしている状態です。

問題なのは買い手や借り手を募集している訳でもなく、「空き家」としてそのまま放置されている状態の「③その他の住宅」であ

私の町にも学校統合で閉校となった下灘中学校とアスベスト問題で移転を余儀なくされ近くの保健センターに移転した上灘保育所があつて、議会の度に地元選出の議員が質問するものの、理事者は「善処します」「前向きに考えます」を繰り返し、もう10年以上も進展もなく放置され、今はツタが生え始めゴーストタウンの様相になり始めました。これらの施設を取り壊し更地にするには、億の単位の資金が必要になると言われ行政も二の足を踏んでいるようです。

#### 集落単位の空き家

私の町で増え続けているのが限界集落と準限界集落です。集落の高齢化率が50%以上の集落を限界集落、10年後に限界集落になるであろう集落を準限界集落と呼んでいますが、既にコミュニティの最小単位の集落機能を維持できなくなり消滅した集落が4地区あります。恐らくあと10年もすれば町の集落の半分は消えてなくなるであろうことを思うと、危機感が募って仕方がありません。先日10年前に消えた町内の集落へ調査に入りましたが、かつて賑やかだった集落のあちこちには、なすすべもなく崩れ落ちて土台のみが寂しく残る民家や、みんなが集ったであろう集会所も草が生い茂り同じ運命をたどる姿を見て、これが先進国と言

り、空き家全体に占める割合が、2018年には41%に上っています。③のその他の住宅が増えている時代背景は、少子高齢化や世帯構成の変化であり、人が住まなくなった理由は「死亡した」が35.2%と二位になっていると同時に、空き家住宅を取得した理由の一位は「相続した」が52.3%と全体の半分を占めているようです。つまり空き家になるきっかけは親が無くなり家を引き継いだ場合が多いのです。

ひと昔前の私たちが子ども頃は子、親、祖父母の三世同居の世帯も多かったのですが、核家族化が進む現代では、夫婦と数少ない子どもだけで暮らす家が一般的になっていて、そのため、親の死後家を相続することになった時は既に自分の家を持つており、通勤や通学の理由で、親から相続した家に移り住むことが難しいケースが多くなっているようです。本来なら相続した家に誰も住まず、遠方などの理由により定期的に管理が難しくなれば、売却や賃貸など何らかの対策を検討すべきでしょうが、家や土地の条件、立地などの問題や、親が残した家財の処分が気後れするなどといった心情的な理由で、放置してしまう人も多いようです。

さらに税制上の軽減措置特例も空き家をそのままにしてしまう一つの要因だと言わ

われた日本の姿であろうかと、寂しくなりました。空き家問題は今や個人の力ではどうにもならない崖っぷちに来ていて、行政の力を借りなければどうにもならなくなっています。

#### これからの空き家対策

これからの空き家対策の第一は、空き家の実態を把握するため地域住民を巻き込んだ大がかりな空き家実態調査が必要で、その実態を行政と住民が共有することから始めなければなりません。個人の資産ゆえ個人情報上の制約もありますが、空き家マップを作り、空き家物件の状態が健全か危険か、また売るか貸すか、その場合の条件などの聞き取り調査を行い、ランク分けをします。もちろん、危険な物件は法律や条例に則り取り壊し勧告なども必要ですが、有効に活用するため広く住民の協力を求め、願わくば優良空き家は減り続ける人口減少対策の一環として、移住促進のため不動産業者も巻き込んで買い主・借り主を探さなければなりません。

私が常々思っていることですが、私の町は県庁所在地から1時間圏内の比較的近い場所ゆえ近隣に仕事場が沢山あるため、息子や娘たちは結婚すると親元を離れ仕事や子どもの教育に便利な他市町へ独立して家

れています。最近では空き家の老朽化による建物の倒壊など空き家放置によって様々なトラブルも発生しています。日本の二戸建ての住宅は木造が多く、高温多湿の日本では定期的な換気などの適切な管理を怠ると劣化が早まり、地震や台風などの自然災害で倒壊してしまうリスクが高く、周辺に被害が及ぶ危険性をはらんでいます。また外壁の劣化や、周囲に雑草が生い茂り、一目で空き家と分かる状態となり、不法侵入や不法投棄、放火といった犯罪リスクも高まっています。近隣に住む住民にとってはそれだけでも不安ですがエリアの資産価値まで下がる可能性もあり、空き家は自分だけにどまらず大きな社会問題となっているようです。

#### 公共施設の空き家

一方、最近大きな問題となっているのは、平成の大合併で行政区域が広域化し、旧市町村単位に造られていた近傍類似施設が不要となり、空き家状態になっている公共施設が増えていることです。少子高齢化や過疎化の影響で人口が減り続けられ、合理化は当然進めなければなりません。これら旧市町村の施設は住民のまちを愛するあまりのエゴが微妙に絡み、行政不信の火種になりかねないため、解決が先送りされているようです。

を建てて住んでいる人が多く、親が亡くなって空き家になってもなかなか帰るに帰れない状態の人が多いようです。その人たちをターゲットに「ふるさとへ帰って暮らそう」キャンペーンを展開して、かつての町民を呼び戻すと空き家は一気に解消するかも知れません。

私が教育委員会在職中に、住民の協力を得て収集した民俗資料が、郵便局跡地、農協倉庫と移動を余儀なくされ、行き場を失った沢山の民俗資料も今はかつて隣町だった中山町の廃校となった学校へ追いやられているのを見につけ、双海史談会の会長をしていることもあり、使わなくなった公共施設の再利用の妙案を見つけられれば、文化財保護とコラボした一石二鳥の効果を生むかもと淡い期待を。

「わが町も ご多分漏れず 空き家では先進地です どうする家康」  
「親が死ぬ 昔は財産 奪い合う 今も見向きも せずに空き家に」  
「学校や 保育所統合 するけれど 跡地利用の 計画なしに」  
「ふるさとへ 帰って暮らそう キャンペーン やってみよう」と 思いませんか」  
(若松進一の笑売啖阿)

今春（4月22日～5月14日）、八幡浜市美術館にて初めて「坂本榮太郎展」という素晴らしい彫塑作品の展覧会が開催された。この一般的には全く無名の作家について、ご紹介を試みたい。



坂本歯科の看板

八幡浜市の本町に坂本歯科医院というレトロな建物があり、地元ではこの歯科の看板を製作した人物として少し知られている。

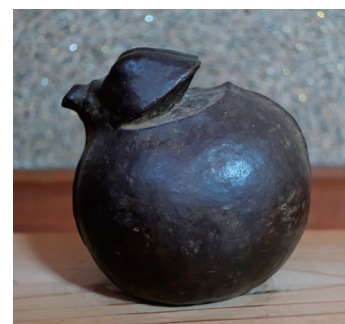
氏は、大正2年に八幡浜の近江屋町にて坂本家の長男として生を受け、やがて大洲中学校を卒業後に上京し、昭和8年20歳で念願の東京美術学校（後の東京芸大）彫刻科塑造部に入學する。当時の教授陣には建島大夢、朝倉文夫、北村西望らが居た。同13年に卒業し研究科（現在の大学院か）に進むも、年末には入宮のために退学しており、その前年に起きた日支事変など、そうした時代状況に余儀なくされたことが伺える。同17年には善通寺工兵隊を満期除隊し、大東亜省に雇用となるも同20年の終戦により外務省嘱託となり、21年に辞して帰郷。やがて結婚の後同28年（39歳）から大洲市教委に職を得、市内渡場に居住する。

先の看板製作は、この帰郷時に姉忍が開業していた歯科を手伝っていた傍らでの事らしい。この看板文字は知る人ぞ知る人気のデザインで、篆書の形をデフォルメした榮太郎オリジナルである。特に「齒」の文字がキュートでなかなかイケているため、作者のセンスや人柄に想いが及ぶ。

していた姉（歯科医）の敷地にアトリエを構え、大洲から毎日通って創作に没頭する日常が始まる。その後の氏の作品群の大部分を占める果実彫刻には理由がある。市教委に勤務と並行して、後に「木を愛する会」設立に関わる植木秀幹博士（1882～1976）との交流が元となり、野山を探索する中で植物に関する興味が文字通り開花する。因みに植木博士は知られざる「朝鮮緑化の父」であり、愛媛大学農学部名誉教授としてその分野の泰斗、大洲市名誉市民でもある。

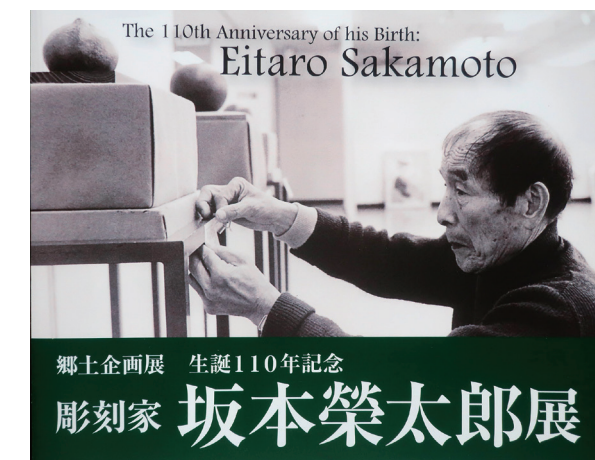


「厚着のマルメロ」西洋梨花



「日だまり」無患子（ムクロジの実）

た彫塑への志向が、諸事情もあって一旦は内在化し、本人も知ってか知らずか、晩年になってその観察の中における発見から、創作への意欲が抑えようもなく沸々と湧き出たのだっただろう。そうした迷いなく美を追求する真摯な姿勢が、そのままひたむきに形となって多くの魅力的な作品が誕生することとなった。氏の作品群は、丁度掌（たなごころ）に載せて味わうべき小品がほとんど。本人も生前希望されていたが、見るだけでなく、触って感じる温かみや、その時の観賞する側の優しい気分こそがこれら作品から伝わる力なのかも知れない。



市製作パンフレットより

折角の作品群ではあるが、八幡浜市では松蔭小学校内に立つ七十周年記念碑のレリーフ作品「朴の花」のみしか見られない。氏の作品発表は地元ではなく、東京での美術学校同期生作品展においてのみだったことで、無名の作家であるの

が惜しまれる。今後はもっとポピュラーに作品の魅力が地域に伝わる仕組みが検討されるように祈っている。

【えひめ彫塑家事情】

さて、ここに興味深い符合がある。榮太郎が東京美術学校に入學した際、錚々たる教授陣に恵まれていたことを前述した。日本の彫塑界をリードした彼ら建島、朝倉、北村の3名は、実は卯之町（西予市宇和町）出身の白井雨山（1864～1928）という人物が指導した逸材のその後だった。雨山は東京美術学校を卒業後、明治31年母校の助教



白井雨山胸像（製作・建島大夢）

授となり、当時の岡倉天心校長を通じて文部省に塑造科の新設を建白し、翌年設置をみる。それまでの日本は木彫中心だった為、銅像など塑造の分野では西洋に遅れをとっていた。雨山は以後2年間の渡欧（独仏留学）を経て帰国後に教授となり、彼が情熱を注いだ塑造教育は、その人材育成の点で見事に結実する。

郷里の宇和町小学校には、雨山没後の昭和5年、胸像が建てられているが、その製作はまさしく弟子の建島大夢。そしてその3年後に坂本榮太郎が東京美術学校彫刻家塑造部に入學し、建島教授の薫陶も受けるというたまさかを考えると、そこに不思議な縁を感じる。

他にも八幡浜で活躍した塩崎宇宙（1911～1990）、あるいは西条市が生んだ伊藤五百木（1918～1992）など、愛媛にも実は豊かな彫塑の世界が広がっているのだ。

令和4年度  
まちづくり活動  
アリスト事業報告

モノづくりの五十崎

五十崎地区は、毎年5月5日に行われる大風合戦の町として知られています。地域をまちづくり観点から俯瞰して見てみると、凧作りはもとより、凧文化を支える和紙作り、竹材づくり、また、清らかな水に育まれた酒造りや食文化を支える食品加工、さらに芸術、鍛冶、木工、農産などなど、モノづくり(アート)とかクラフトと呼ばれる(すが)の地域であると言えます。

五十崎企画委員会の発足

五十崎企画委員会の発足は、令和3年5月のこと。少なからずモノづくりに魅せられた人々が移住してきたことがきっかけです。閉校となった学校を活用した「みそぎの里」のスタートも契機となり、新しい視点とスキル、地元の間では気づかないであろう価値観を地域とつなげることを目的として会を発足させました。メンバーは、若者・移住者・既活動者・行政職員など当初13名が集まりました。



企画委員会の模様

新しい視点との融合による、  
これからの地域の観光交流  
五十崎企画委員会の発足と狙い

初年度は、未来の五十崎像を制約なしにイメージするようなワークショップや、個人の活動の情報交換、事業の企画など自由に議論を深めました。その中で、実現可能な企画案について実際に実施することとして助成を受け本格的なまちづくり活動が始まります。

モノづくり3事業

取り組んだのは、3事業で「モノづくりの五十崎、クラフト交流事業」と名付けました。まず、小中学生を対象とした、モノづくりワークショップです。元々モノづくりに長けたメンバーが居りますので、五十崎の資源を活用したモノづくりを子供たちに体験してもらいました。次に、クラフト自動販売機の稼働です。商店街にある廃棄待ちのタバコの自動販売機を再利用し、タバコの

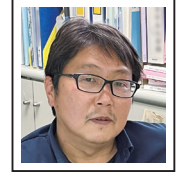


小学生ものづくり



たばこ自販機

五十崎企画委員会  
会長 稲月 道隆



天才画廊

箱の中手作り商品を入れて販売する企画です。商品も製作するアーティストも公募し11人(団体)の参加がありました。環境面・観光面・地域づくり面と様々な分野で好評を得ることができ話題となったことで、参加アーティストも徐々に増えています。最後に、園児を対象とした企画で、自由に描いた作品に大人が題名と解説を付けていくという「天才画廊」という展覧会を1月から3月まで五十崎自治センターで行いました。

これからの五十崎に向けて

モノづくり文化だけでなく、これまで気づいていない価値観から見えてくる地域の資源を、未来に継承・発展させることが地域の維持存続の力ぎと考えています。パッチャルの世界になったとしても地域の本物を信じ、新しい力や若い力と地域が融合しながら、より誇り高い地域となれるかが重要だと思っています。

令和4年度  
まちづくり活動  
アリスト事業報告

みらいの関川を考える会を紹介します

令和3年7月関川公民館が主催した「少子高齢化」「関川地域の困り」について考えるワークショップへ、危機感を抱いた約50名の地域住民が自主的に参加し、活発な意見交換がされました。同年10月には有志者合意で「みらいの関川を考える会」を発足し、行政にも協議に参加してもらいながら地域振興という大海原へと出航いたしました。その後、「集落活性化意識醸成支援事業」に関川地域も指定いただき、地元住民の想いと、多くの方の関わり協力を得ながら地道な活動が今日も行われています。

「学生ソーシャルビジネスプランコンテスト in 関川」の開催

地域振興についての会合を重ねるなか、今の子どもたちが将来に関川へ居住したいと思える活動を歯止めとして取り入れる必要性に着目しました。ミライを担う子どもたちに「関川将来像」を子どもたち目線で想い描い



今だからできる！  
未開発地帯の治療が人を育て「活力をミライ」へつなぐ！

てもらい、関川で行いたい又は必要とされる産業や商業を考える機会を作る「子どもを育てる」活動を行いました。

題して「学生ソーシャルビジネスプランコンテスト in 関川」の開催です。小学生には10年後に住みたい関川について、中学・高校生にはビジネスにつながる事として、年齢に応じたテーマで募集しました。

作品総数は、なんと172作品となり、キャリア教育の一環として、地元小・中・高校の協力を頂くことで、学校教育との連携を深め、子どもを育てる想いがつなごうとした瞬間となりました。

令和4年12月4日は運命のコンテスト開催日。応募172作品の中から小学生部門は8作品、中高生部門は7作品が本選へと進みま



みらいの関川を考える会  
会長 近藤 和明



した。発表内容は見事！壮絶、壮大でありながら、子どもたちの魅力の詰まった作品で、子どもたちが関川を愛しており、関川に求めていることを知るとともに、豊かな発想はしっかりとビジネスや活力、少子高齢化の的を捉えており、審査員の心に大きな感動をもたらしました。

活動ミッション発動とミライ

活動開始から2年が経過し、多くの意見や問題点から将来を見据えた活動がスタートしております。コンテストの作品「関川ラーメン」の開発着手や、空き家対策活用事業の調査など、的を絞った具体的活動を計画・実施するとともに、防災面や地域活動拠点などさまざまな問題解決を担う施設検討も並行して取り組んでおります。危機感をもつ関川だから…今だからできる！社会を安心安全に構築していくのは地域力の結集の他ない、自場力の重要性が望まれる時代でないかと感じる。ミライを作るのは、一人ひとりの生きる活力です。関川地域の活力をミライへつなぐは今しかない！



令和4年度  
まちづくり活動  
アレスト事業報告

地域イベントでまちの活性化を!!  
「玉の子音頭の復活」と「うずい祭り」

うずい祭り実行委員会  
会長 越智 章浩



玉津地区の紹介

西条市玉津地区は、西条市の東部に位置し西条市立玉津小学校を校区とする4,271世帯9,060人(令和5年3月末現在)の地区です。人口は、平成の大合併以降、約1,200人増加しています。ただし、地域コミュニティの核となる自治会の加入率は平成17年度71・99%であったものが、令和4年度は、50・56%と大幅に減少しています。人口の増加に対し、自治会加入率は年々減少している地域コミュニティの希薄化が懸念されている地区といえます。

「玉の子音頭」と「うずい祭り」

私たちが小学生の頃昭和50年代は、まだ地域の青年団や大人達による「盆踊り」を小地区単位の自治会で実施しており、その中で子供たちからお年寄りの方々まで幅広く参加し、地域の皆が楽しむ地域の一大イベントでした。しかし、年を追うごとに「地区」「地区」と「盆踊り」がなくなり、現在、玉津地区は



玉の子音頭

「盆踊り」の行事がない地区になってしまいました。また、私達の通った玉津小学校には、「玉の子音頭」があり、運動会の種目として全校練習し、大勢の保護者の前で披露することで子供たちや地域に認知、引き継がれるとともに「盆踊り」等で踊ることにより地域コミュニティの一翼を担っていました。残念ながら、私達の子供が玉津小学校に通う頃には、「玉の子音頭」は無くなっていました。そこで、玉津小学校卒業生を中心に、慣れ親しんだ「玉の子音頭」を復活させ、新たに「うずい祭り(夏祭り・盆踊り大会)」を実施することで、玉津地区住民の和の広がりや相互の絆の強化、三世代交流を核としたコミュニティの醸成を図りたいと考え、令和4年8月にうずい祭り実行委員会を立ち上げました。

令和4年度の取り組み

前述のとおり、「うずい祭り」実施には、玉の子音頭を復活させ、広く周知することが必要です。そこで、昨年度は「うずい祭り」のプレ事業として玉津公民館で「ゆく年くる年コンサート」を企画・実施することで、玉の子音頭復活の狼煙を上げるとともに周知を図りま

した。出演は、高齢者の団体として「さくらんぼ(大正琴)」、「ひまわり(盆踊り)」、小中学生主体のダンスチーム「GoGoJamDance」等の参加や各団体の「玉の子音頭」の披露により、「玉の子音頭」の周知、また、イベントの終盤には、観客、出演者が一体となり「玉の子音頭」を踊ることにより異年齢間のふれあいを図りました。出演者、観客からは好評で、今後も団体内でレパトリーの一つとして踊りや演奏を続けたなどの感想もいただきました。



出演者 (GoGoJamDance)

今後の取り組み

令和5年度は、8月6日(日)に「うずい祭り」を実施し、玉津校区連合自治会の協賛のもと、地域の青年団などの協力を得ながら、多くの玉津地区住民の参加により、玉の子音頭の復活と地域のふれあいの場を創出します。そして、「うずい祭り」は、今年度以降も継続して実施することで、玉津地区住民の真夏の恒例行事として地域に定着させ、活力ある地域の取り組みとして実施することで地域コミュニティの醸成を図りたいと考えています。

令和4年度  
まちづくり活動  
アレスト事業報告

第二回SDGs貝絵アートコンテスト  
展示会(施設展示とウェブ展示)

はじめに 一般社団法人宇和島SDGs社会教育事業団 紹介

私たち法人は、愛媛県宇和島市を中心とする圏域の全世代の市民に対して、地域でSDGsの活動を実践・推進することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行っています。

- (1) SDGsの17の持続可能な開発目標に関わる事業
- (2) SDGsの17の持続可能な開発目標とそれを達成するための169のターゲットに関わる事業
- (3) メセナ活動(芸術文化振興による社会創造)に関わる事業
- (4) 環境アート活動(環境保全とアート教育の融合活動)に関わる事業
- (5) 社会教育活動を通じた地域コミュニティ・地方創生に関わる事業
- (6) 地域の歴史・自然・文化の発信を行うエコツアーに関わる事業
- (7) 地球温暖化防止活動の推進に関わる事業
- (8) 地域環境教育・医療・福祉の推進に関わる事業
- (9) その他法人の目的を達成するために必要な事業

地域の多様性ある全ての住民・子供たちから、環境アートのメッセージを全国へ

私たち法人が取り組む事業の中の一つに、地域環境保全活動の一環として3R(リサイクル・リユース・リデュース)によるゴミの削減の普及啓発事業を行っています。その活動事例として、私たちの居住する宇和島圏域の宇和海で産出される地域資源である食用ヒオウギ貝の廃棄貝殻を再生し再活用することで、地域の持続可能な成長に寄与する地域循環共生圏(ローカルSDGs)の形成を進めています。

今回のSDGs貝絵アートコンテスト・展示会は、この3Rの考え方に基づいた地域産物(ヒオウギ貝)の貝殻を貝殻キャンバスとしてリサイクルし、次世代を担う小中学校の子供たちの環境教育・美術教育や地域住民の社会教育に活用しながら、同時



さらにこれからは、障がい者の人たちの中からも、貝絵アート作品製作への参加を促し、障がい者アートの分野での未知の可能性を見つけていけるよう、展示会・コンテストへの障がい者の人達の参加を呼び掛けていきます。

一般社団法人宇和島SDGs社会教育事業団  
代表理事 霜村 一郎



## 賛助会員 大募集!!

当センターは、センターの趣旨や事業に賛同し、活動にご支援をいただくとともに、諸活動を通じて、地域活性化を支える方々のネットワークとなる企業、NPO法人、地域づくり団体、また地域づくりに関心がある皆様を対象に、賛助会員制度を設けています。

### 年会費

- 法人会員(特定非営利活動法人を除く) [一口] 30,000円/年
  - 個人及び団体(特定非営利活動法人を除く) [一口] 3,000円/年
- 複数口でのお申込みもいただけます。

### 主な会員特典

- 地域づくり情報誌「舞たうん」のお届け(年3回)
- 地域づくり活動に関する助成事業の案内
  - 地域づくり活動アシスト事業 など
- センター主催・実施事業の案内
  - 地域活力創造フォーラム ●「地域づくり力」講座 ●移住者交流会 など

### ご入会の手続き

ご入会のお申込みは、随時受け付けております。  
次のURL又はQRコードから、専用フォームにてお申込み。

<https://forms.gle/NWHJoyoUBvnaMzvP8>



### お問い合わせ・お申込み

公益財団法人 えひめ地域活力創造センター  
〒790-0065 松山市宮西1丁目5-19 (愛媛県商工会連合会館3階)  
電話:089-926-2200 FAX:089-926-2205 E-mail:ehime-chiiki@ecpr.or.jp



参加者募集



## ボランティアで、 集落とつながる。



### 「元気な集落づくり応援団」ボランティア活動とは

愛媛県では、地域活動の担い手不足に困っている集落とボランティアで集落を応援したい企業や団体とのマッチングを行っています。平成22年度のスタートから多くの方が参加し、新しい交流が生まれています。この事業をきっかけに集落と地域外との継続的な交流へつながり、集落の住民の方にとっても、ボランティアを通して、多様な人とつながることで、地域が抱える課題を見つめ直し、いつまでも暮らし続けられる集落づくりについて考える機会になることを期待しています。

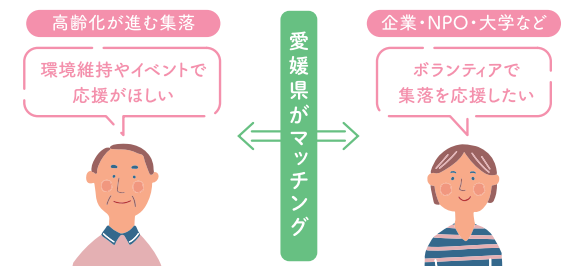
たくさんのリポート利用をいただいています!

#### ボランティア活動の様子



【海岸のゴミ清掃をお手伝い】

【集落のイベントサポート】



#### 利用者(集落)の声

◎市役所からの紹介で応募。当日は多くの方に応援に来ていただき、運動会は大いに盛り上がりました。今でも応援団の方々と交流が続いています。  
◎応援団の方のおかげで、無事にイベントを開催できました。本当に頼んでよかったです。来年度も応援団の皆さんと一緒にイベントを盛り上げていきたいです。



#### 活動の事例

お祭りやイベントの準備・運営補助  
地区の運動会の運営補助  
清掃、草刈り etc.



応援団の紹介

#### 参加対象

【集落の方】  
原則、65歳以上の方がおおむね半数以上、または人口がおおむね50人未満の地区。  
応援内容にもよりますので、まずは各市町にご相談ください。  
【応援団に登録したい方】  
2名以上のグループであればどなたでも登録できます。  
※営利や政治活動・宗教活動が目的の行為は認められません。

#### お問い合わせ

【応援団登録について】  
愛媛県地域政策課  
松山市一番町4丁目4-2 TEL.089-912-2261  
【その他】  
お近くの市役所・町役場の地域振興担当  
または(公財)えひめ地域活力創造センター  
松山市宮西1丁目5-19 TEL.089-926-2200

## インターネットによる情報発信強化中!!

### えひめ地域活力創造センター



ホームページ『えひめ地域活力創造センター』  
<http://www.ecpr.or.jp/>



『えひめ地域活力創造センター』  
<https://www.facebook.com/ECPR0899262200/>  
 センター職員毎日更新チャレンジ中



### 愛媛ふるさと暮らし応援センター



愛媛県移住ポータルサイト『えひめ移住ネット』  
<https://e-iju.net/>



『えひめ移住コンシェルジュ』  
<https://www.facebook.com/iju.ehime/>



YouTubeチャンネル『愛媛ふるさと暮らし応援センター』  
<https://www.youtube.com/user/eijuEhime/featured>



## 「えひめ地域づくり研究会議」会員募集中! ~地域の未来を共に考え、行動しよう~

「えひめ地域づくり研究会議」は、地域づくりに関する「情報交流の場・情報公開の場・学習と研究の場」として、昭和62年(1987年)11月に設立された団体で、令和2年度には、愛媛経済同友会の第34回「美しいまちづくり賞」(地域活性化活動部門)を受賞しました。

人口減少社会への対応や身近な地域課題の解決へ向けて、約100名の仲間と共に、年次フォーラムや地域フォーラムの開催、高校生等の地域づくり活動支援などを通じて、学習や研究活動、会員の情報交換などを行っています。

特に、近年、人口減少社会に挑む地域社会や人材育成を応援するため、愛媛大学やえひめ地域活力創造センター等と連携し、年次フォーラムを開催しています。今年度は、12月9日(土)、「人口減少社会を生きる!フォーラム2023」を愛媛大学等で開催予定です。

また、会員へのサービスとして、えひめ地域活力創造センターの協力をいただき、情報誌「舞たうん」等の資料提供、フォーラム等研究会議の活動情報発信などを行っています。

地域づくりに関心がある皆さん、地域への夢や悩みをお持ちの皆さんのご参加をお待ちしています。



「研究会議の活動状況や入会の申し込みは」  
<http://www.ecpr.or.jp/actions/research-conference/>  
 年会費3,000円(随時加入できます)



「facebookで情報発信中」  
<https://www.facebook.com/kazeokoshi/>



研究会議についてのお問い合わせは

「えひめ地域づくり研究会議事務局」  
 (えひめ地域活力創造センター内)  
**Tel.089-926-2200**  
 E-mail: ehime-chiiki@ecpr.or.jp

## 地域の皆様の大きな力が明日の愛媛を創ります!

### 愛媛の地域活性化にご協力いただいている皆様

#### ◇公益財団法人 えひめ地域活力創造センター<<賛助会員>>

- |                |                 |                 |
|----------------|-----------------|-----------------|
| (株)愛亀          | 越智今治農業協同組合      | (株)西村商事         |
| (株)あいテレビ       | (株)門屋組          | 日新化学工業(株)       |
| (株)アットハウジング    | (株)カナックス        | 日本食研ホールディングス(株) |
| (株)アサヒジム       | (学)河原学園         | (株)日本政策投資銀行     |
| 一宮運輸(株)        | キスケ(株)          | (有)ネクストクルー      |
| (株)伊予銀行        | (株)久保建設         | (株)野間工務店        |
| 伊予商工会議所        | 佐川印刷(株)         | (株)ハタダ          |
| (株)伊予鉄高島屋      | 三星道路(株)         | (株)濱崎組          |
| (医)尚温会伊予病院     | 三創印刷(株)         | (株)フジ           |
| (株)宇高          | 四国ガス(株)         | フジボウ愛媛(株)       |
| 内子町商工会         | 四国経済連合会         | (株)芙蓉コンサルタント    |
| (株)うわじま産業振興公社  | 四国建販(株)         | 平和印刷工業(株)       |
| 宇和島自動車(株)      | 四国電力(株)         | 松山商工会議所         |
| 宇和島信用金庫        | 四国乳業(株)         | 松山総合開発(株)       |
| (株)エイト日本技術開発   | 四国旅客鉄道(株)       | 丸住製紙(株)         |
| (株)愛媛銀行        | しまなみ商工会         | マルマストリグ(株)      |
| 愛媛経済同友会        | NPO法人しまの大学      | 三浦工業(株)         |
| 愛媛県漁業協同組合      | 生活協同組合コープえひめ    | (株)美川建設         |
| 愛媛県商工会議所連合会    | セキ(株)           | 三原産業(株)         |
| 愛媛県商工会連合会      | 全国共済農業協同組合連合会   | 村上産業(株)         |
| 愛媛県信用漁業協同組合連合会 | 全国農業協同組合連合会     | ヤマキ(株)          |
| 愛媛県信用保証協会      | 大一ガス(株)         | (株)山本建設         |
| 愛媛県信用農業協同組合連合会 | (株)ダイキアクシス      | 八幡浜紙業(株)        |
| 愛媛県中小企業団体中央会   | (株)大建設計工務       | 八幡浜商工会議所        |
| 愛媛県農業協同組合中央会   | 大八工業(株)         | 特定非営利活動法人 弓削の荘  |
| 愛媛県酪農業協同組合連合会  | (株)玉井歯科商店       | 吉田三間商工会         |
| (株)愛媛CATV      | (一財)地域活性化センター   | (株)ヨンキュー        |
| 愛媛飼料産業(株)      | (一財)地方自治研究機構    | 四電ビジネス(株)       |
| (株)愛媛新聞社       | 津島町商工会          | (株)よんやく         |
| 愛媛信用金庫         | (株)テレビ愛媛        | 個人会員            |
| えひめ中央農業協同組合    | (株)デンカ          |                 |
| (株)愛媛電算        | (株)藤堂組          |                 |
| 愛媛土建(株)        | トータスエンジニアリング(株) |                 |
| 愛媛冷暖房(株)       | 砥部町商工会          |                 |
| (株)エフエム愛媛      | 南海放送(株)         |                 |
| 岡田印刷(株)        | 南予興業(株)         |                 |
| 岡田電機(株)        | 南レク(株)          |                 |

※五十音順・敬称略  
 ※個人会員名称は個人情報保護のため未掲載  
 2023年7月30日現在



宝くじ  
公式サイト

すぐ買える 当たりがわかる クイックワン

# Quick One

## クイックワン

宝くじ  
公式サイトで  
発売中!



今すぐ会員登録!

宝くじ公式サイト

<https://www.takarakuji-official.jp/>

宝くじの収益金は  
私たちの街の公共事業等に  
役立てられています。



お問い合わせ先

宝くじコールセンター

TEL: 0570-01-1192 (ナビダイヤル 有料)

TEL: 011-330-0777 (有料)

一般財団法人 全国市町村振興協会

### 【編集後記】

今号の作成を行う中で、今や空き家問題は人口減少社会を生きる私達の誰にでも起こり得る身近な問題であることを感じました。空き家問題に対して、自治体のみならず民間企業や個人レベルまで、それぞれの立場から取り組んでおり、課題解決へのアプローチも様々です。それぞれが活動が相乗効果を生み出し、空き家問題の解決、ひいては地域の活性化に繋がりますよう祈念しております。

本誌が、皆様の地域づくり活動の一助となれば幸いです。

引き続き、「舞たうん」ではさまざまな地域づくり活動の特集をまいりますので、今後のご愛読をよろしく願います。

また、最後に本誌の作成に御協力いただきました皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

(徳田)

〒790-0065

松山市宮西二丁目五番十九号

愛媛県商工会連合会館三階

(公財)えひめ地域活力創造センター

TEL 089(926)2200

FAX 089(926)2205

発行/令和5年7月

(公財)えひめ地域活力

創造センター

(公財)愛媛県市町村振興協会  
印刷/平和印刷工業株式会社